

現代中国語における“把 NP－V”構文について  
An Analysis of the “Ba (把) NP－V” Construction in Modern Chinese

小路口 ゆみ  
KOJIGUCHI Yumi

**要旨**：在“把”字句中，有一种“把 NP－V”句型，即句子的结构为“名词＋把＋名词＋一＋动词”。本文通过对现代汉语文献（《家》、《人到中年》以及北京語言大学の BCC 语料庫）中此类“把”字句中“一”所起作用的考察与分析，发现这个“一”不只是表示动作的瞬间性（即时间副词的功能），更主要的是作为连接副词，表示与后文动作之间的先后顺序、目的等关系。同时，本文还对“把 NP－V”句型的结构特点和语义功能进行了探讨。对于“实施动作・行为”，句型里的“一”具有[＋连接性]、[＋实施性]、[－结果]等意义。通过本次的调查与分析，旨在帮助学习汉语的外国学习者更好地理解这种“把”字句的意义，并能更加准确、自然地运用这一句型。

**キーワード**：“把 NP－V”構文 瞬間性 動作の順序 結果 目的

## 目次

- 1 はじめに
- 2 先行研究
- 3 “把 NP－V”構文の特徴
- 4 “把 NP－V”構文と“一 V”構文の容認度
- 5 おわりに

## 1 はじめに

“把”構文は、中国語における文型の一つである。以下の例文を見てみよう。

- (1) 傅家杰把台灯弯得更低些，又用一张报纸挡上，才继续工作。（《中》：81）  
傅家傑はスタンドの首をぐっと低く曲げ、さらに新聞を被せて光を遮ってから仕事をつづけた。（『人』：104）
- (2) 幼年父亲出走，母亲在困苦中把她抚养成人。（《中》：9）  
幼い頃、父親が出稼ぎにいったまま帰らず、母は女手一つで彼女を育て上げてくれた。（『人』：17）

(3) 当他听说家里有人得了急病，需要立刻送医院时，二话没说，就把手一挥，招呼傅家杰上车。(《中》：106)

急病人を病院へ連れていきたいと聞くと二つ返事で、傅家傑に車に乗れと合図した。(『人』：134)

例(1)では、“台灯”が動詞“弯”によって“更低些”という結果に至っている。例(2)では、“她”が動詞“抚养”によって“成人”という結果になっている。このように、例(1)および例(2)の“把”構文は、いずれも結果を表している。

一方で、例(3)では、“手”が動詞“挥”によって何らかの結果になったわけではない。このような“把”構文は結果を表しているのではなくて、後続文である“招呼傅家杰上车”との二つ単文の順序を表している。

本稿は、“把 NP - V”構文には、「動作・行為の実行」に加えて、「+接続性」(参照点構造<sup>1)</sup>)、「+実行性」、「-結果」といった意義素が認められることを主張する。この構文について、認知文法の視点から分析考察を行う。

## 2 先行研究

“把 NP - V”構文に関しては、以下のような先行研究がある。

2.1 范晔(2001)は、“把”構文を十種類に分類し、その中で“把 NP - V”構文を「状態式」と呼んでいる。氏によれば、“一”は状況語であり、この構文では動作の迅速さや瞬間性を表すという。また、この種の“把”構文には後続文があるのが特徴であると述べている。動詞については、大多数が動作動詞であるが、少数ながら状態動詞も存在するとしていると述べる。

2.2 徐峰(2014)<sup>2)</sup>は、この構文の特徴について以下の3点をあげる。①Vの前に現れる数量成分は“一”のみである。②“把 NP - V”構文では、“一 V”構文と比べて、単音節動詞しか使えない。③この構文には必ず後続文がある。

2.3 杨茜(2023)は、近世から現代に至るまでの“把+NP+V”構文の構造的変遷について論じている。また、当該構文は主観性をもたらすと同時に、交互主観性ももたらしたと指摘している。

以下の例文を見てみよう。

<sup>1)</sup> 山梨正明(2014: 475)は参照点構造について次のように述べている。「実際には、そのターゲットに到達するための参照点(すなわち、対象に到達するための手がかり)を認知し、この参照点を経由して、問題のターゲットとしての対象を認知していくのが普通の探索のプロセスである。」

<sup>2)</sup> 徐峰(2014)は、次のように述べている。「V 前的“一”之所以能够作为唯一的“数+动”表达形式留存下来，一定是因为其特殊的表达功用。……“把 NP - V”中的“V”在句法表现上有两个更为突出的特点：一是音节的单音节性，二是动词的外显性与瞬间性。……携带后续小句是“把 NP - V”的一个重要特征。」(“V”の前に置かれる“一”が、“数+動詞”という唯一の形式として残存しているのは、それが特別な表現機能を持っているからに他ならない。……“把 NP - V”構文における“V”には、統語的に際立った二つの特徴がある。一つは音節が単音節であること、もう一つは動詞が“外显性”であり、瞬間的な意味を持っていることである。……“把 NP - V”構文が後続の小文(節)を導くというのも重要な特徴の一つである：筆者訳)

(4) 他刚跑了一身的热汗，把那个冰凉的小水筒往胸前一贴，让他立刻哆嗦一下；不定有多大时候，那个水筒才会有点热和劲儿。(《骆驼》：77)

走って汗ぐっしょりになっているところへ、氷のような瓶をかかえこむと、とたんに身ぶるいがでる。しかも、それを冷たく感じないようになるまでは、だいぶ長いあいだかかる。(『らくだ』：150)

(5) 坐在城市的最中央，只要把窗帘一拉开，就能看到全城夜景。(BCC)

街のど真ん中に座っていて、カーテンをサッと開けるだけで、街全体の夜景が見渡せる。(筆者訳)

例(4)の“把那个冰凉的小水筒往胸前一贴”の“一”は、氷のように冷たい水筒を胸に貼り付けるように抱きかかえるという瞬間的な動作短時体を表している。例(5)は動詞“拉”に方向補語“开”を伴う二音節複合動詞である。したがって、筆者の見解は以下の通りである。

- ① この構文における“一”は、数量成分ではなく、瞬間性を表している(范晓 2001)と同様の見解である。(例4)
- ② この構文に用いられる動詞は単音節動詞が主であるが、少ないながら「動詞+補語」の形も存在する。(例5)

### 3 “把 NP - V” 構文の特徴

#### 3.1 “把 NP - V” 構文における“一”の解釈

“把 NP - V” 構文における“一”について、以下のような先行研究がある。

《现代汉语词典(第7版)》(p. 1532)では、“一”の用法として以下のように説明する。

⑦ “用在动词或动量词前面，表示先做某个动作(下文说明动作的结果)”(「動詞または動量詞の前に用いられ、ある動作をまず行うことを表し、後続の文でその結果を説明する」筆者訳)。例：他在旁边一站，再也不说什么了。⑧ “与“就”配合，表示两个动作紧接着发生。”

(“就”と組み合わせて用い、二つの動作がすぐに続いて起こることを表す：筆者訳) 例：一说就明白。

赵元任(1979)は、“一”を動詞の前に置く用法について、時間副詞であると主張する。

崔希亮(1995)は、“把 NP - V” 構文において、動詞の前の“一”が即時態(アスペクト)を表し、動作や変化の突然性・即時性を表現していると分析する。

殷志平(1999)<sup>3)</sup>は、古代漢語において動詞の前に数詞を置いて動量を示す用法があり、

<sup>3)</sup> 殷志平(1999)は、次のように述べている。“古汉语中表示动量概念的方法通常是在动词前加数字。……如果动词前的数字是“一”，则表示动作发生一次。现代汉语中用在动词前的“一”，实际上是古汉语中在动词前数字来表达动量用法的延续。……动词前的“一”包含的时量通常是短暂的，在时轴上不会延续很长时间。……动作短暂往往有动作快捷的意思。”(古漢語において動量概念を表す方法としては、通常、動詞の

その基本義は「一度だけ動作をする」あるいは「短時間の動作をする」ことであり、そこから「速さ」「突然性」「程度」などの意味が派生したと述べる。

刘月华(2002)は、動詞の前に現れる“一”を“描写性状語”(描写的状況語)と位置づける。

以上の先行研究をまとめると、“把 NP 一 V”構文における“一”の用法には以下の二つの見解があると整理できる。

① 数詞的用法:回数や動量を表し、即時性を含意する

② 副詞的用法:時間副詞または状況語として機能し、動作の即時性・突然性を表す  
本稿は、“把 NP 一 V”構文における“一”は副詞の用法で、動作の即時性・突然性という意味を表す時間副詞だけではなく、動作の順序を表す接続副詞でもあると考える。

### 3.2 “把 NP 一 V”構文における“一”の語義

“把 NP 一 V”構文における“一”について、言語資料《家》、《人到中年》及び北京語言大学 BCC データベースの実例を用いて、考察分析することにした。

3.2.1 “把 NP 一 V”構文における“一”は、動作の回数や瞬間性を表すだけでなく、後続文にあることの状況も説明する。日本語に訳すと、「～して」に相当する。以下に例をみてもみよう。

(6) “叫人恼火的就是这个!”谢愷莹把茶杯重重地往小几上一放,“他居然说我们跟他一样!也是皮包公司,真叫人受不了。”(《人到老年》119)

「腹が立つのはそこのよ!」謝愷莹は茶碗を小さな机の上にバンと置いた。「あの人、なんと私たちのことも自分と同じだって言ったのよ!私たちもペーパーカンパニーだなんて、ほんとに我慢ならないわ。」(筆者訳)

(7) 瑞珏看见一桌人的目光都集中在她的脸上,不觉微微红了脸,把盆子向觉慧面前一推说:“多谢你这番好意。不过我自来不喜欢海味,还是请你代吃罢。”(《家》:88)

瑞珏は食卓にいた皆の視線が自分の顔に集中しているのに気づき、思わず頬を少し赤らめ、盆を覚慧の前にそっと押し出して言った。「ご好意ありがとうございます。でもあたし鮑は好きませんの、代わりにお一人で食べてくださいませんか?」(筆者訳)<sup>4)</sup>

例(6)における“谢愷莹”は、“把茶杯重重地往小几上一放”の動作した後に、後続文である“他居然说我们跟他一样!也是皮包公司,真叫人受不了。”を発話している。このう

---

前に数字を加える。……もし動詞の前にある数字が“一”であれば、それは動作が一度だけ行われたことを示す。現代漢語における動詞前の“一”の用法は、古漢語において動量を表すために動詞前に数字を置く用法の延長である。……動詞前の“一”が含意する時量は通常短く、時間軸上では長く継続しない。……動作が短いということは、しばしば動作が迅速であるという意味を含む:筆者訳)

<sup>4)</sup>『家』(飯塚朗訳:134)では、「瑞珏は一卓全部の人の眼が彼女に向けられたので思わず赤くなり、皿を覚慧の前へ押し返し「ご好意ありがとうございます。でもあたし鮑は好きませんの、代わりにお一人で食べてくださいませんか?」と訳されている。

ち、“把茶杯重重地往小几上一放”は、発話時の状況を示すものである。しかし、“把茶杯重重地往小几上一放”は後続文と接続関係にあるものの、結果的な意味を担っているわけではない。当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」、「-結果」といった特徴が認められる。同様に、例（7）の“一推”は、「推す」という動作をして、その後続く“说”（発話する）という動作に移ることを示している。当該構文にも、動作の「+実行性」、「+接続性」、「-結果」といった特徴が認められる。

### 3.2.2 接続副詞的用法：後続する文との前後関係を表す“一”

“把 NP 一 V” 構文における「一」は、後続する文との動作の順序を示す接続副詞的な機能を担う場合がある。すなわち、最初の動作を短時間でやり、その直後に次の動作が続くという、一連の動作が連続して行われることを表す。

- (8) a. 焦成思把茶杯往桌上一放，掏出烟盒，想起大夫刚才的话，又装了进去，叹了口气说道：（《中》：73）

焦成思は湯呑をティーテーブルに置き、タバコを取り出したが、先ほどの医者 of 戒めを思い起こして再びポケットにしまいこんだ。そしてホッと溜息をつき。

（『人：94』）

\*b. 焦成思把茶杯往桌上放一下，掏出烟盒（作例）

\*c. 焦成思把茶杯往桌上放一次，掏出烟盒（作例）

- (9) “我来，我来！”司马把盆往门边一放，立即从曾惠心手上拿过小脸盆。（《人到老年》102）

「私がやる、私がやるよ！」と司馬は言いながら、盆をドアのそばにサッと置き、すぐに曾惠心の手から小さなたらいを受け取った。（筆者訳）

例（8）a の“一放”は、動作“放”に続いて“掏出烟盒（タバコを取り出す）”という動作が起こるといふ順序を表しており、「まず茶碗をテーブルに置いて、それからタバコを取り出す」といふ意味になる。一方、（8）b “放一下”は動量詞“一下”によって、動作の短さ・軽さ、すなわち「ちょっと置く」といふ意味を表す。また、（8）c “放一次”は「一回置く」といふ回数を表している。b “放一下”と c “放一次”は、どちらも「少し」「ちょっと」といふ意味を表し、瞬間性を有する。しかし、後続文である“掏出烟盒（タバコを取り出す）”とのつながりがないため、「まず」「先に」といふ順序性は生じない。したがって、（8）a の“一放”には、「まず」「先に」といふ動作の順序を示す意味がある。同様に、例（9）の“一放”も、“放”（置く）という動作を短時間で済ませ、その後の“拿”（受け取る）という動作へとつながっている。この二つの文は、いずれも“一”がなければ、“把盆子向曾惠心面前推说”や“司马把盆往门边放，立即从曾惠心手上拿过小脸盆”のような文にはならず、不自然になる。“一”は単に動作の短時間性を表すだけでなく、動作の実行性や後続の動作との接続関係を作り出す機能も担っていると言える。しかし、“把 NP

一 V” 構文は、動作の開始や実行を示すにとどまり、その結果までは表していない。したがって、当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」、「-結果」といった特徴が認められる。

### 3.2.3 結果を導く接続副詞としての“一”

“把 NP 一 V” 構文における“一”は、後続する文に示される動作の結果と結びつける働きを持ち、接続副詞的な機能を果たしている。すなわち、「～した結果」という意味合いで文と文をつなぐ役割を担う。

- (10) 她要是把孩子留下,她自己干脆跑了,丁二还能把酒一断,成个人。(《离婚》:120)  
 あの女が、もし子供をのこして、あっさり自分だけででて行ってくれたら、私はまだ酒を断つことも、人なみな人間にもなれたんでしょう。(『離婚』:97)
- (11) 小铁匠用铁铲尖儿把炉中煤一戳,几缕强劲有力的暗红色的火苗窜了出来,煤着了。(《透明》:13)  
 若い鍛冶がスコップの先で炉の中の石炭を一掻きすると、威勢の良い暗紅色の炎がポーッと舞い上がった。石炭に着火したのだ。(『透明』:43)
- (12) 李太太知道广播的电力不小,心中已不那么憋得慌。把种着鹅黄色菜心的红萝卜一摔,摔在痰盂里,更觉得大可以暂告一段落。(《离婚》117)  
 李夫人は、放送の電力がかなり強かったことがわかると、腹の虫もさっきよりは治った。黄色い白菜の花を中心に挿した赤大根のかざりを、ポンと、痰つぼの中に投げこんだら、いっそう彼女は、これで無事一段落すんだという気がした。(『離婚』:95)

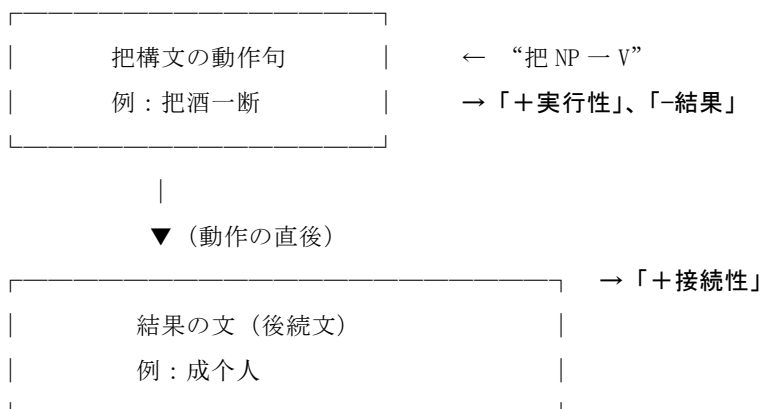


図 1. 例 (10) の説明

上記の[図 1]のように、例 (10) の“把酒一断”は、「酒を断つ」という意味を表し、その行為の結果として、後続文の“成个人”(人なみの人間になれた)という成果が導かれて

いる。“把酒一断”は行為の実行を示すものであり、「+実行性」を有すると言える。一方、この構文自体は結果を直接表すものではなく、その結果は後続文である“成个人”によって示されている。

例(11)の“一戳”は、「スコップの先で炉の中の石炭を一掻きする」という意味であり、“几缕强劲有力的暗红色的火苗窜了出来，煤着了”(威勢の良い暗紅色の炎がポーッと舞い上がった。石炭に着火したのだ)という結果が生じている。

同様に、例(12)の“一摔”では、“一”が動作“摔(投げる)”の瞬間性を表しており、その結果として「痰つぼに落ちた」という結果が導かれている。ここでも“一”は、動作の実行性やその短さ・即時性を示すと同時に、後続文に現れる結果とも緊密に結びついているが、“把种着鹅黄色菜心的红萝卜一摔”は結果を表してはならず、その結果は後続文である“摔在痰盂里”によって示される。したがって、当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」、「-結果」といった特徴が認められる。

このように、“把 NP - V”構文における“一”は、直後の動作が引き起こす結果を後続文で提示する際に、両者を接続する役割を果たしている。しかし、“把 NP - V”構文は、動作の開始や実行を示すにとどまり、その結果までは表していない。したがって、当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」、「-結果」といった特徴が認められる。

### 3.2.4 結果との接続機能：「～しながら、～する」という用法

“把 NP - V”構文における“一”は、ある何らかの動作や状態が成立したことを契機として、その後他の動作や心理的变化が生じる場合にも接続副詞的な機能を果たす。このような用法では、「～しながら」「～することで」といった意味合いを持つ。

(13) 她把小嘴一噘，埋下头去，默默地用手捏了捏她的微微有点酸痛的小脚，母亲的话陡然涌上心头。(《家》：140)

彼女は小さい口を尖らせてうつむくと、だまってそのかすかに疼く小さい脚を撫でながら、母のいった言葉がにわかにか心に浮んで来るのだった。(『家』：210)

(14) 鸣凤痴痴地望着他，半晌不说话，忽然眼里淌下泪来，她也不去揩它们，却把心一横，十分坚决地答道：“我不去！我决不去跟别人。我向你赌咒！”(《家》：118)

鳴鳳は呆然と彼を見つめ、しばらくものもいえなかったが、涙が流れてきた。彼女はそれをぬぐおうともせず、心にふと決意したように「あたし行きません。けっしてほかの人のところへなど行きません。あなたに誓います」(『家』：180)

例(13)の“一噘”は、動作“噘(口をとがらせる)”が先行し、その状態のまま“埋下头去”(頭をうつむける)や“默默地用手捏了捏……”といった後続の動作が続いている。ここで“一”は、動作の開始とその後の動きや心情の変化をつなぐ役割を担っている。同様に、例(14)の“一横”は、「心を決める」という瞬間的な心理的動作であり、その状態に至った結果、“十分坚决地答道”(きっぱりと答える)という行動が生じている。この例

の“一”は、動作を実行して、結果に至っていないが、心理的転換とその結果の行動を接続する副詞的機能を果たしている。

このように、“把 NP－V”構文における“一”は、単に瞬間性や回数を表すだけでなく、動作・状態・感情の転換点を示し、後続の出来事を導く接続副詞としての役割も果たしている。したがって、当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」、「-結果」といった特徴が認められる。

### 3.2.5 “把 NP－V”は状態を表し、目的を表す後続文と接続する副詞的機能を持つ

“把 NP－V”は目的を表す後続文と接続し、「～したのは～のためである」という意味を表す。

- (15) 可是，当他听说家里有人得了急病，需要立刻送医院时，二话没说，就把手一挥，招呼傅家杰上车。(同前例(3))  
急病人を病院へ連れていきたいと聞くと二つ返事で、傅家傑に車に乗れと合図した。(『人』:134)

例(15)において、“把手一挥”は単なる短時間動作ではなく、“招呼傅家杰上车”(傅家杰を車に呼び乗せる)”という目的を達成するための導入的動作として機能している。すなわち、「手を一振りしたのは、傅家杰を車に乗せるためである」という因果関係が構築されており、“一”は後続する動作の参照点として、動作の成立とその目的との間をつなぐ接続副詞的な役割を果たしている。ここでは「合図した」と意識されて、その意図は「傅家傑に車に乗るよう促すため」である。このように、“把 NP－V”構文では、“一”が後続文と意味的・機能的に結びつき、動作の意図や目的を明示する働きを持つことがある。したがって、当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」(参照点構造)、「-結果」といった特徴が認められる。

## 4 “把 NP－V”構文と“一V”構文の容認度

本節では、“把 NP－V”構文と“一V”構文の容認度について分析考察する。

- (16) 他便把身子一侧，让出了一条路，鸣凤马上跑出去了。(《家》:11)  
彼はからだをわきへよせて路を開けてやった。鳴鳳はすぐに駈け出していった。  
(『家』:19)
- (16)’ 他便一侧身子，让出了一条路，鸣凤马上跑出去了。(作例)
- (17) 我看见她的嘴唇微微在动，我想她也许要说什么话，谁知道她把头一掉，一句话也不说就走进去了，也不再回头看我一眼。(《家》:98)  
俺は彼女の唇がかすかにふるえるのを見た。彼女は何かいおうとしているのかもしれないと思った。ところが思いがけなく、彼女は顔をそむけたまま、ひとこと

もいわずに店の中へは行っていったしまつて、もうふり返ろうともしなかったんだ。(『家』: 148)

(17) ‘谁知道她一掉头，一句话也不说就走进了，也不再回头看我一眼。(作例)

例(16)の“他便把身子一侧”は、“他便一侧身子”と言い換えても文として成立する。同様に、例(17)も“把头一掉”と“一掉头”の両形態が許容される。これらの例で用いられている“側”、“掉”は身体の動きを表す動詞であり、その動作の後に一定の状態になることを示しているため、両構文とも自然に使うことができる。この点は、吳春仙(2001)<sup>5)</sup>が指摘するように、“把”構文の目的語として身体の部分が多く用いられ、その動詞Vはそれに相応した動作を表す傾向があることと符合する。

しかし、以下に示すような他の“把 NP - V”構文では異なるため、検討を続ける。

(18) 琴把头微微一摇，略带感伤地说：“可是梅表姐不见得就容易忘记他。单看她那双眼睛，我就知道她至今还记得大表哥。……妈叫我不要把这个消息告诉大表哥。”(『家』: 39)

琴はかすかに頭をふつて感傷的にいった。「でも梅表姐の方は容易に忘れられないように見えるわ。あの眼を見ていると、今でも大表哥を忘れていないとわたしは思うの。大表哥にこの話をしてはいけないって母さんはいつたわ。(『家』: 61)

(19) “这就怪了，你凭什么得出这样的结论？”司马把背朝后一靠，仿佛受了莫大的冤枉而又无法替自己辩解似的。(《人到老年》198)

「それはおかしいよ。君は何を根拠にそんな結論を出すんだ？」司馬は背をぐつともたせかけ、まるでひどく濡れ衣を着せられ、それに反論することもできないかのようなだった。(筆者訳)

(20) 走着，走着。她的头一倾斜，立刻就碰到小石匠坚实的肩膀，她又把身子往后一仰，一只粗壮的胳膊便把她揽住了。(《透明》: 24)

歩き、そして歩き続けた。彼女の首が傾くと、すぐに石工のがっしりとした肩に当たり、彼女がさらに身体を仰向けると、太い腕が彼女を支えた。(『透明』: 60)

例(18)の“琴把头微微一摇”の部分、“琴微微一摇头”は言えるが、“琴一微微摇头”といった形では不自然である。同様に、例(19)の“把背朝后一靠”は、“一朝后靠背”や“朝后一靠背”も不自然である。例(20)における“把身子往后一仰”は、“往后一仰身子”

<sup>5)</sup> 吳春仙(2001)は、次のように述べている。“如果要去掉“把”，有两种方式，一种和前者一样，将“把”的宾语移至动词后做该动词的宾语，……二是直接去掉“把”就可以了，……这类句子中，“把”的宾语多为身体的某个部位，V是和这个部位相符合的动作。”(“把”を取り除くには二つの方法がある。一つは前述と同様に、“把”の目的語を動詞の後ろに移して、その動詞の目的語とする方法である。……もう一つは、“把”をそのまま削除する方法である。……この種の文においては、“把”の目的語は多くの場合、身体のある部位であり、動詞Vはその部位に対応する動作となっている：筆者訳)

や“一往后仰身子”も同様に不自然である。これらはいずれも同じ身体動作を表しているが、例(18)、(19)、(20)は、例(16)、(17)とは異なり、動詞の前に“一”のみが置かれている場合とは異なる。例(18)、(19)、(20)では、“一”のほかにも、“微微”、“朝后”、“往后”などの状況語が動詞の前に存在している。このような場合、“把 NP 一 V”構文を用いることは可能であるが、“一 V”構文は成立しない場合がある。この理由についての考察は、別稿に譲りたい。

## 5 おわりに

“把 NP 一 V”構文においては、必ずしも動作の「結果」が明示されるとは限らないが、“一 V”は後続文と密接に結びついており、その中の“一”は瞬間性・短時間、突然性といった時間副詞的機能に加え、「まず」という動作の順序を示す機能、また後続文である結果や目的とつなぐ接続詞的な機能を果たしていると考えられる。このような機能は、“一”の文法化（機能語化・虚化）が進行した結果であると推測される。当該構文には、動作の「+実行性」、「+接続性」（参照点構造）、「-結果」といった特徴が認められる。

さらに、“把 NP 一 V”構文における“一 V”には、音節数との音韻的要因が関与している可能性が考えられる点については、今後の課題として調査を進めていきたい。

## 参考文献

- ①《家》 巴金 人民文学出版社 1953年第一版  
『家』 飯塚朗訳 1956年 岩波書店
- ②《骆驼祥子》 老舍 人民文学出版社 1978年湖北第6次印刷（略《骆驼》）  
『らくだのシアンツ』 立間祥介訳 1980年 岩波書店（略『らくだ』）
- ③《人到中年》 谌容 百花文艺出版社 1982年第2版第3次印刷（略《中》）  
『人、中年に到るや』 訳者林芳 1984年 中央公論社（略『人、中』）
- ④《离婚》 老舍 文汇出版社 2008年第一版  
『離婚』 伊藤敬一訳 1962年 平凡社
- ⑤《透明的红萝卜》 莫言 2004年 当代世界出版社（略《透明》）  
『透明な人参 莫言珠玉集』 藤井省三訳 2013年 朝日出版社（略『透明』）
- ⑥《人到老年》 谌容 1988年 上海文艺出版社  
北京語言大学 BCC データベース

## 参考文献

### 中国語

- 陈 光 2003. <准形态词“一”和现代汉语的瞬时体>《语言教学与研究》第5期, p17-24  
陈前瑞 王继红 2006. <动词前“一”的体貌地位及其语法化>《世界汉语教学》第3期, p24-35

- 崔希亮 1995. <“把”字句的若干句法语义问题>《世界汉语教学》第3期, p12-21
- 范晓 2001. <动词的配价与汉语的把字句>《中国语文》第4期, p309-319, 383-384
- 刘守军 2010. <“一X就Y”格式分析>《淮海工学院学报》第10期, p105-108
- 刘月华等 2007. 《实用现代汉语语法(增订本)》, p176-208 商务印书馆
- 吴春仙 2001. <“一·V”构成的不完全句>《世界汉语教学》第3期, p46-52
- 徐峰 2014. <“把NP—V”的句法、语义和语用功能>《汉语学习》第4期, p46-54
- 杨茜 2023. <近代汉语到现代汉语中“把NP—V”结构的变迁>《西安外国语大学学报》第3期, p40-46
- 殷志平 1999. <动词前成分“一”的探讨>《中国语文》第2期, p116-121
- 张晓 2019. <现代汉语“把N—V”格式研究及对外汉语教学设计> 专业硕士学位论文  
郑州大学, 2019
- 赵元任 1979. 《汉语口语语法》, p174 商务印书馆
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2016. 《现代汉语词典》第7版 商务印书馆
- 日本語**
- 山梨正明 2014 「認知言語学」『日本語文法事典』 p 472-476 大修館書店